

『外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査について』

2015年に医療被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) より、日本初となる医療被ばくの線量指標を示した診断参考レベル (DRLs 2015) が発表されました。

また、救急医療の現場において外傷全身加算が算定され、施設基準を満たした各施設では頭部から骨盤までを撮影する外傷全身 CT が行われるようになりましたが、具体的な撮影方法や撮影条件においては施設毎で異なっているように思われます。

今回、全国に登録されている救命救急センター284施設 (別添参照) のうち、ご賛同いただいた施設において、外傷全身 CT を撮影された症例の CTDI、DLP の全国調査を行い、国内における外傷全身 CT 検査の被ばく線量の現状を把握し、このデータを基に外傷全身 CT での線量指標の策定につなげたいと考えております。

つきましては、まことに恐縮ですが下記のように調査を実施する予定です。ご賛同いただき、成功に導くためご支援いただきますようお願い申し上げます。

記

調査名 : 外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査
調査方法 : アンケート調査
調査施設 : 全国にある救命救急センター284施設
調査期間 : 平成29年8月1日 (火) ~平成29年11月30日 (木)
各施設での調査症例数 : アンケート期間内の直近20例 (満たない場合、期間内全症例)
研究班構成員 : 班長 神戸赤十字病院 放射線科部 宮安 孝行
副班長 りんくう総合医療センター 放射線技術科 藤村 一郎
班員 札幌医科大学附属病院 放射線部 平野 透
札幌医科大学附属病院 放射線部 鈴木 淳平
札幌医科大学附属病院 放射線部 小倉 圭史
国立病院機構仙台医療センター 放射線科 高橋 大樹
福島医科大学附属病院 放射線部 田代 雅実
国立病院機構水戸医療センター 放射線科 田中 善啓
名古屋第二赤十字病院 放射線科 大保 勇
岡山大学医学部附属病院 医療技術部 赤木 憲明
済生会熊本病院 中央放射線部 坂本 崇
済生会熊本病院 中央放射線部 江崎 泰史
大阪医科大学三島南病院 山本 浩司
国保旭中央病院 診療技術部放射線科 五十嵐 隆元
りんくう総合医療センター 放射線技術科 坂下 恵治

【研究情報の公開について (オプトアウト)】

通常、臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究や、余った検体のみを用いるような研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされております。このような手法を「オプトアウト」と言います。なお、研究への協力を希望されない場合は、研究責任者までお知らせください。

(研究責任者)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-1 神戸赤十字病院 放射線科部 宮安孝行

E-mail : t-miyayasu●kobe.jrc.or.jp (迷惑メール対策のため、連絡の際は●を@に変更してください)